ー村史こぼれ話６ー

唱歌「弥彦山」

先日、役場にメールで「やひこのやまをみわたせばそーれくもに…」という歌に関する問い合わせがありました。以前も数回いただいたことがあります。皆さんはこの歌をご存知ですか。

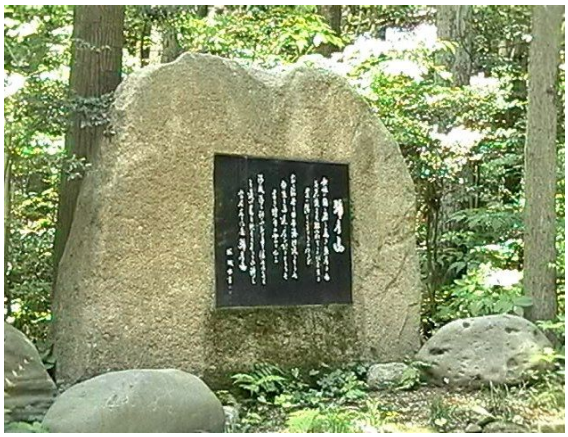
一　越路の国に名も高き　弥彦の山を見わたせば
　　壮麗雲につき入りて　貴く清きながめかな
二　前に渦巻く日本海　沖辺に浮ぶ佐渡ヶ島
　　遙かに眉を引きたるは　遠き陸羽の山々か
三　海風清く袖吹きて　浮世のちりも通い来ず
　　思へばげにも御神の　宮居座します弥彦山

（大正10年発行「教材摘要　新選唱歌集」による）

この歌は、明治34年（1901）、新潟市で開催された第一回共進会の折に、特に県が東京音楽学校に委嘱して作成されたといわれます。作詞、作曲は東京音楽学校といわれますが、おそらくは中頸城郡柿崎町出身で東京音楽学校教師であった小山作之助によるものと推察されます。当時、新潟師範学校の音楽教師が熱心にこの唱歌を指導し、師範学校卒業生を介して県下全般に普及し親しまれました。

大正10年発行の「教材摘要　新選唱歌集」にこの歌が採用されています。また昭和７年発行の高田師範学校附属小学校編「改訂小学唱歌教授書」にも採用され、尋常科５年で指導されました。楽譜につけられた指導のしおりには「壮大な、一種崇高の念に打たれる曲である。旋律は大層よく出来て居て歌って居ると山容や霊気が身に迫る様に感ぜられる。尋二ふじの山と相並んで名曲である。（原文のまま）」と書かれています。

現在は、一番の「壮麗雲につき入りて」の部分が「双嶺雲にそびえ立つ」に変わって歌われています。彌彦神社敬神婦人会の愛唱歌にもなっています。



平成５年に、弥彦村出身で吉田町在住の書家堀城水（本名・誠一郎、故人）が卒寿記念に揮毫し、扁額におさめて弥彦小学校に贈り、のちに弥彦中学校にも贈られました。さらに歌碑にして彌彦神社に奉納、ロープウエーへの山道入り口附近に建てられています。

（参考文献：弥彦神社社報「いやひこ」、高田師範学校付属小学校「改訂小学唱歌教授書」ほか）